



**2019年11月期  
決算説明会**

**2020年2月14日**

**アルテック株式会社**

**(東証一部：9972)**

- 1. 2019年11月期 決算報告**
- 2. 2020年11月期 業績予想**
- 3. 中期経営計画報告（3年目）**

# **1. 2019年11月期 決算報告**

## 2019年11月期 決算ハイライト（連結）

	実績	前期比
売上高	14,562 百万円	△10.1 %
営業利益	610 百万円	△12.9 %

## 商社事業

- 少子高齢化に伴う労働人口減少による人手不足が深刻化する中、合理化・省力化投資需要等を取り込む
- 一方、生産能力増強や維持更新投資需要等が鈍化したことにより減収減益

## プリフォーム事業

- 夏場の長梅雨の影響などにより、飲料用プリフォームの販売数量が減少
- 一方、生産性の向上や原価低減活動に取り組んだこと等により減収増益

## 2019年11月期 決算報告

## 2019年11月期 決算実績（連結）

（単位：百万円）

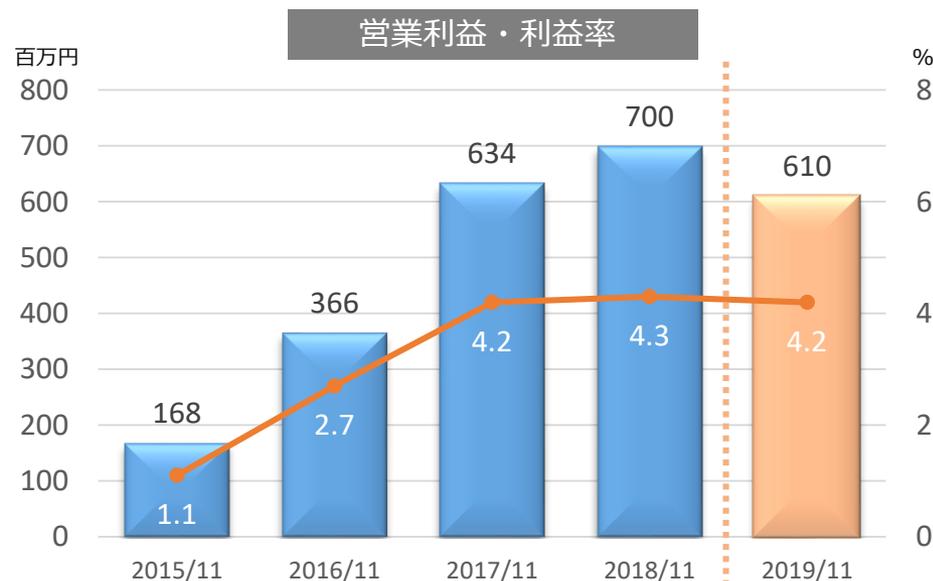
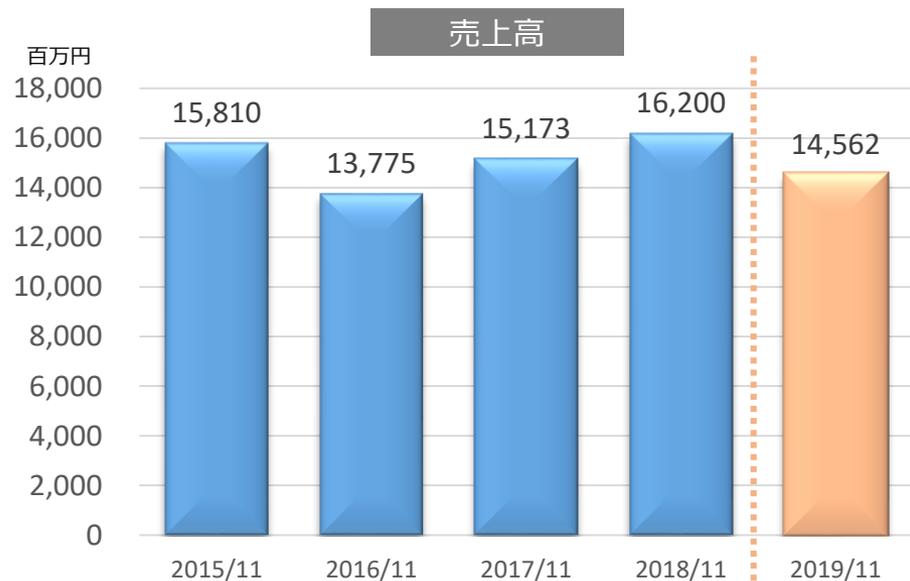
	2018年11月期	2019年11月期	
	実績	実績	
	金額	金額	前期比
売上高	16,200	14,562	△10.1%
営業利益	700	610	△12.9%
営業利益率	4.3%	4.2%	
経常利益	721	587	△18.5%
当期純利益	583	509	△12.7%
E P S	34.02円	30.11円	

## 2019年11月期 決算報告（連結業績推移）

### 2019年11月期 連結業績推移（2015～2019）

（単位：百万円）

	2015/11 実績	2016/11 実績	2017/11 実績	2018/11 実績	2019/11 実績
売上高	15,810	13,775	15,173	16,200	14,562
営業利益	168	366	634	700	610
営業利益率	1.1%	2.7%	4.2%	4.3%	4.2%



■ 2016年度までは低採算商権の整理等の影響で売上高は減少傾向にあり、2017年度、2018年度は、競争優位性のある商圈に注力し増収基調に転換。しかし、2019年度は、ウェイトの大きい生産能力増強投資需要の停滞から減収減益。

## 2019年11月期 決算報告（セグメント別売上高構成比）

### セグメント別売上高構成比（連結）

### 商社事業

売上高：9,078百万円

62%

【印刷・包装機械を中心に多岐に亘る機械・機器等を販売】



### プリフォーム事業

売上高：5,518百万円

38%

【PETボトル用プリフォーム等を製造】



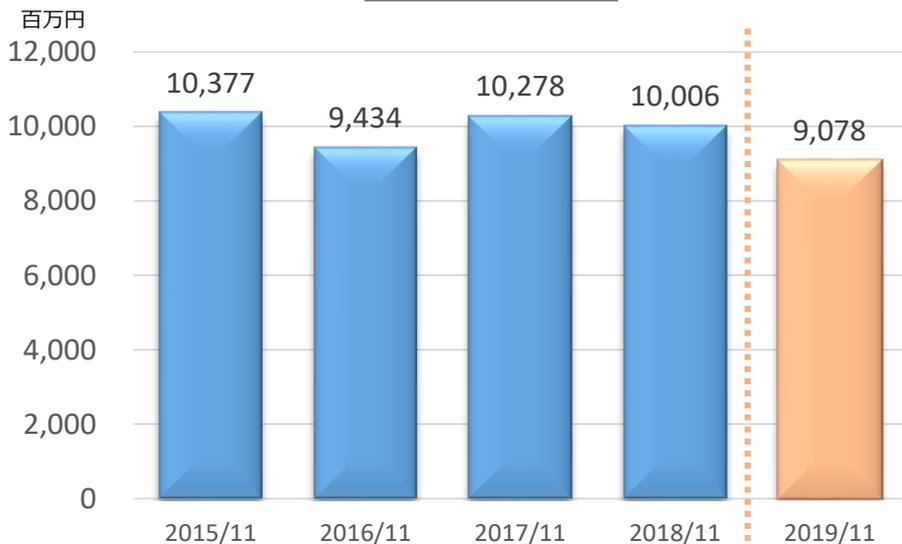
## 2019年11月期 決算報告（商社事業の業績推移）

### 2019年11月期 連結業績推移（2015～2019）

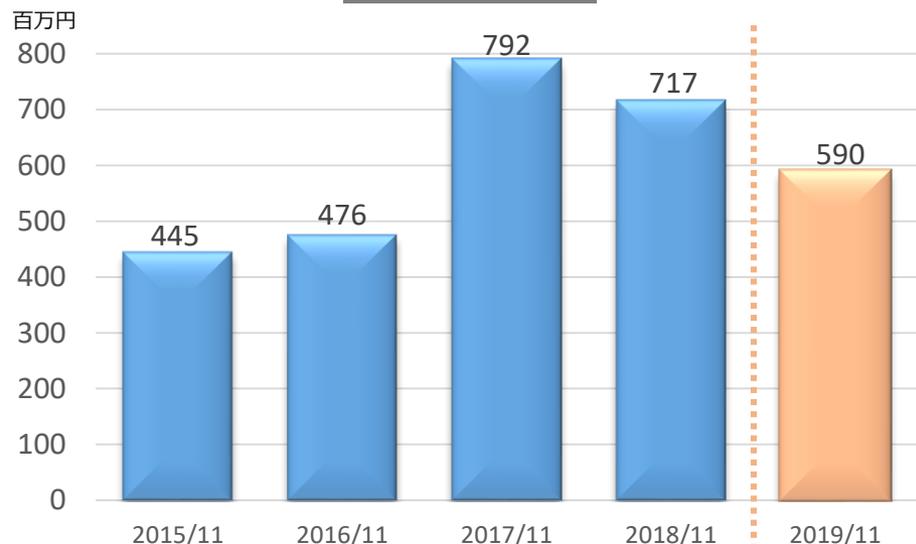
（単位：百万円）

	2015/11 実績	2016/11 実績	2017/11 実績	2018/11 実績	2019/11 実績
売上高	10,377	9,434	10,278	10,006	9,078
セグメント利益	445	476	792	717	590

売上高



セグメント利益



（注）セグメント間の内部取引を含んだ金額を記載しております。

## 2019年11月期 決算報告（プラットフォーム事業の業績推移）

### 2019年11月期 連結業績推移（2015～2019）

（単位：百万円）

	2015/11 実績	2016/11 実績	2017/11 実績	2018/11 実績	2019/11 実績
売上高	5,489	4,365	4,937	6,263	5,518
セグメント利益	△101	60	37	149	159

売上高



セグメント利益



（注）セグメント間の内部取引を含んだ金額を記載しております。

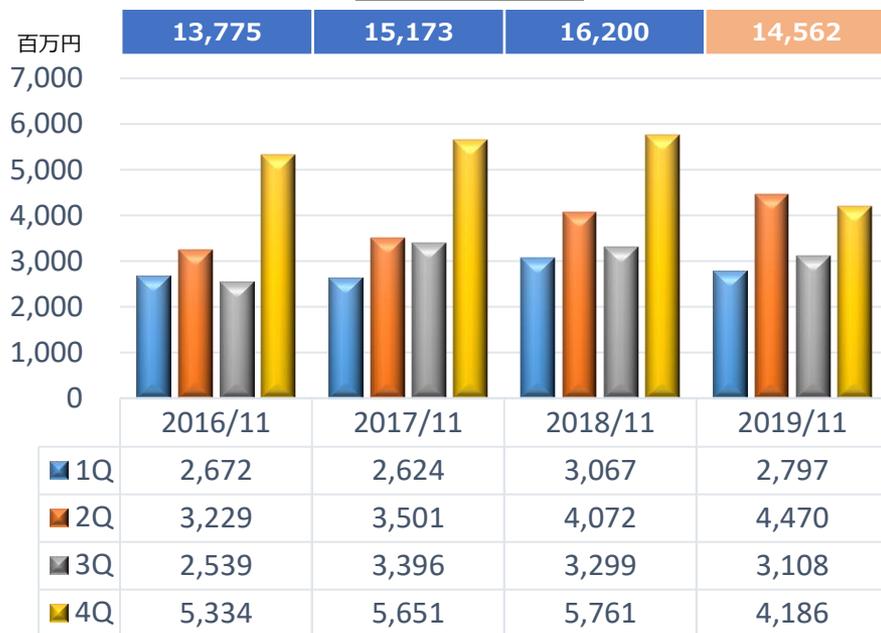
## 2019年11月期 決算報告（四半期毎業績推移）

### 四半期毎業績推移（直近4カ年2016～2019）

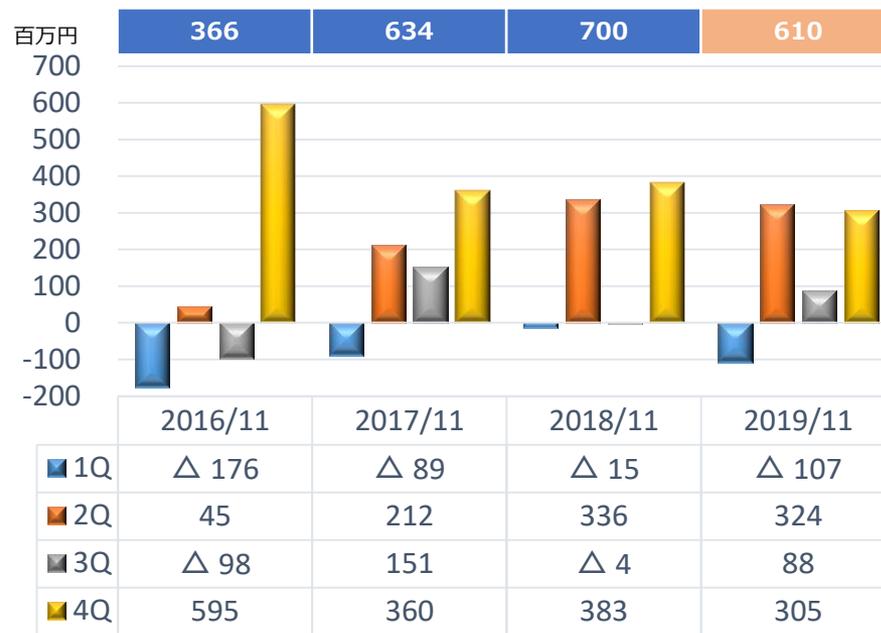
（単位：百万円）

	2016/11 実績	2017/11 実績	2018/11 実績	2019/11 実績
売上高	13,775	15,173	16,200	14,562
営業利益	366	634	700	610

売上高累計



営業利益累計



- 当社グループの業績には、季節変動あり
- 当社が取り扱う産業機械の平均納期が6ヶ月であるため、売上高が第4四半期に集中

## 2019年11月期 決算報告（連結財政状況）

## 連結財政状況（要約貸借対照表）

（単位：百万円）

	2018年11月期	構成比	2019年11月期	構成比
<b>資産</b>	15,121		13,966	
流動資産	9,075	60.0%	8,527	61.0%
有形固定資産	3,980	26.3%	3,377	24.1%
無形固定資産	474	3.1%	414	2.9%
投資（その他資産）	1,590	10.5%	1,646	11.8%
<b>負債</b>	4,773		3,805	
流動負債	4,110	86.1%	3,123	82.1%
固定負債	663	13.9%	682	17.9%
<b>純資産</b>	10,347	68.4%	10,161	72.8%

## ◆負債の減少◆

流動負債において支払手形及び買掛金が319百万円、短期借入金が473百万円減少

## ◆純資産の減少◆

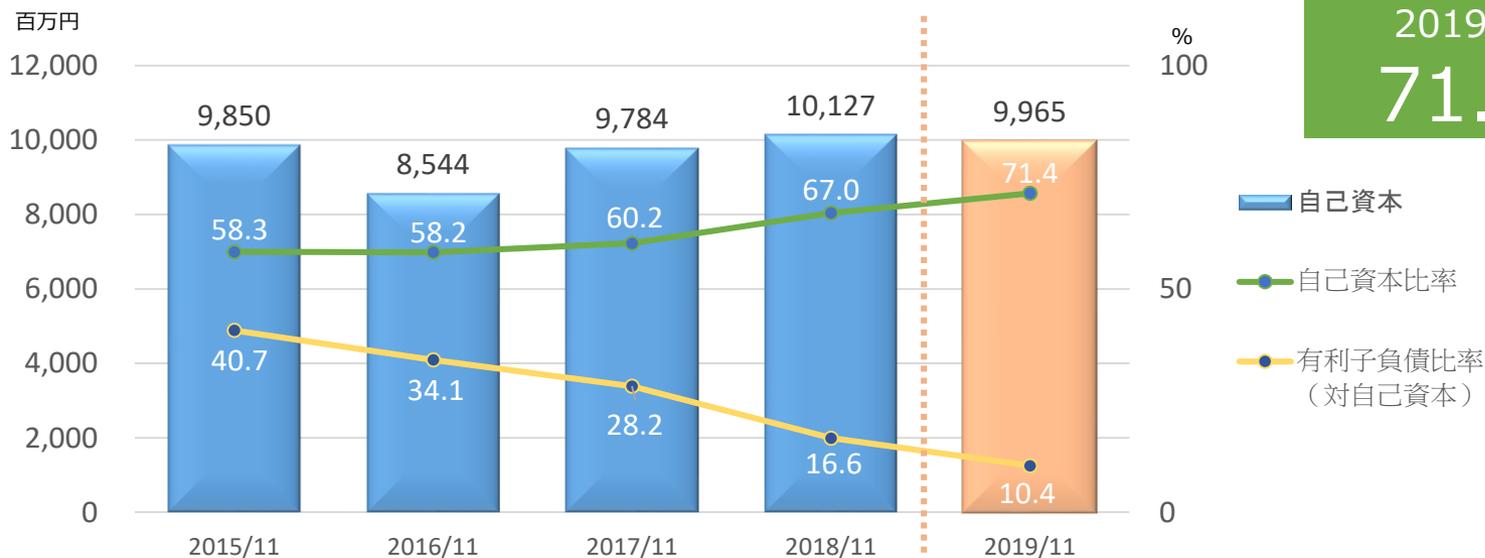
為替換算調整勘定が442百万円減少したほか、149百万円の自己株式の取得を行ったことにより減少

## 2019年11月期 決算報告（自己資本等の推移）

（単位：百万円）

	2015/11 実績	2016/11 実績	2017/11 実績	2018/11 実績	2019/11 実績
自己資本	9,850	8,544	9,784	10,127	9,965
自己資本比率	58.3%	58.2%	60.2%	67.0%	71.4%
有利子負債比率 （對自己資本）	40.7%	34.1%	28.2%	16.6%	10.4%

自己資本等の推移



自己資本比率

2019/11末

71.4%

■ 自己資本

● 自己資本比率

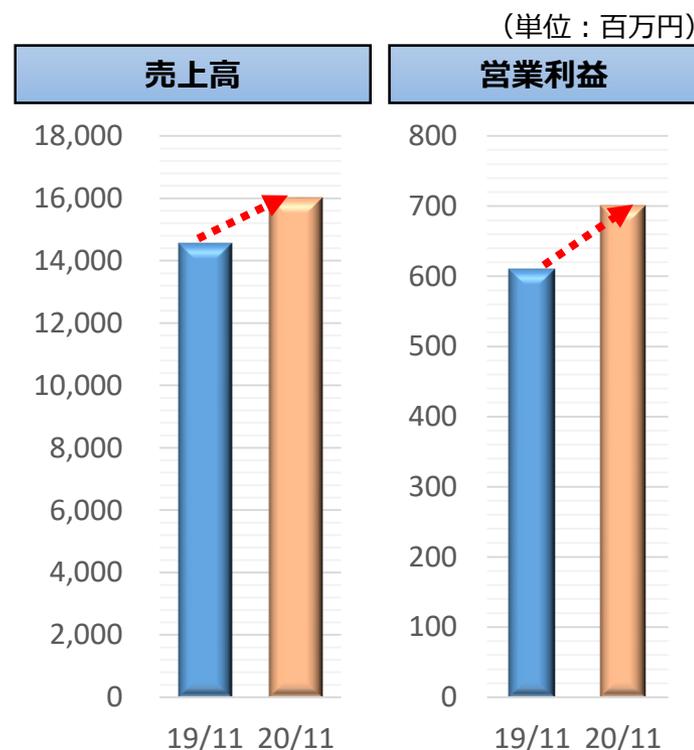
● 有利子負債比率  
（對自己資本）

## **2. 2020年11月期 業績予想**

## 2020年11月期 業績予想

## 2020年11月期 連結業績予想

	2019年11月期	2020年11月期	
	実績	予想	前期比 (%)
売上高	14,562	16,000	9.9
営業利益	610	700	14.7
営業利益率	4.2%	4.4%	-
経常利益	587	600	2.0
当期純利益	509	500	△1.8
EPS	30.11円	31.30円	-



- 東京オリンピック・パラリンピック開催等を背景に、内需は底堅く緩やかな回復基調が継続
- また、人手不足感が強まる中、自動化・省力化などの生産性を高める設備投資は活発
- さらに、生産能力増強および設備維持更新投資なども回復

## **3. 中期経営計画報告（3年目）**

### 事業付加価値の創出

3年目の実績

【収益機会の拡大】

サービスロボットの拡販



4年目の施策

- ・ 需要増が見込める既存商権の拡販強化
- ・ サービスロボットを中心とする新規商権の開拓強化
- ・ ホワイトスペースの攻略強化

### 固定費効率の向上

3年目の実績

【収益力の更なる向上】

コスト改善



4年目の施策

- ・ 品質維持向上・生産性向上・業務効率化への取り組み強化

### グローバル運営体制の構築

3年目の実績

【持続的成長を実現する人材

・ 組織力の強化】

次世代リーダー育成



4年目の施策

- ・ 人材育成活動強化の継続

重点施策の達成

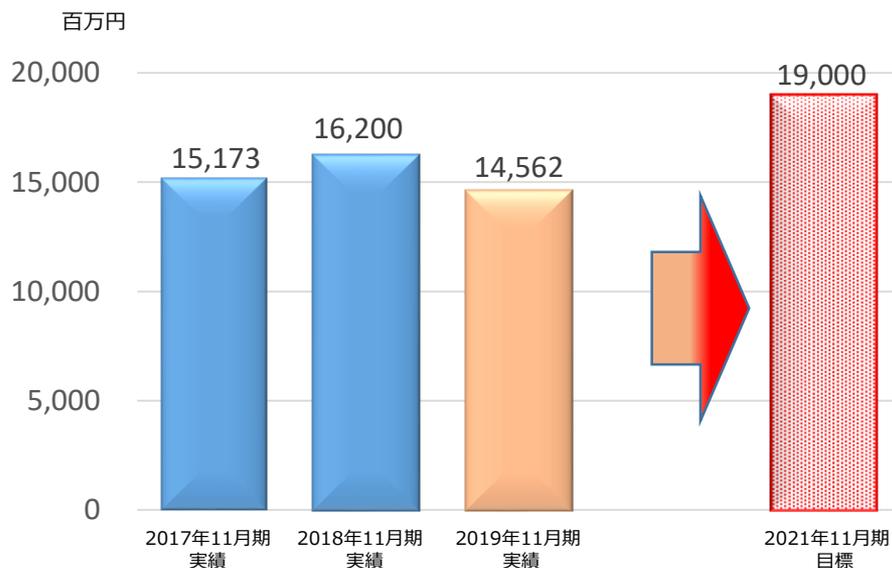
## 中期経営計画報告 連結目標

### 中計5年 連結目標

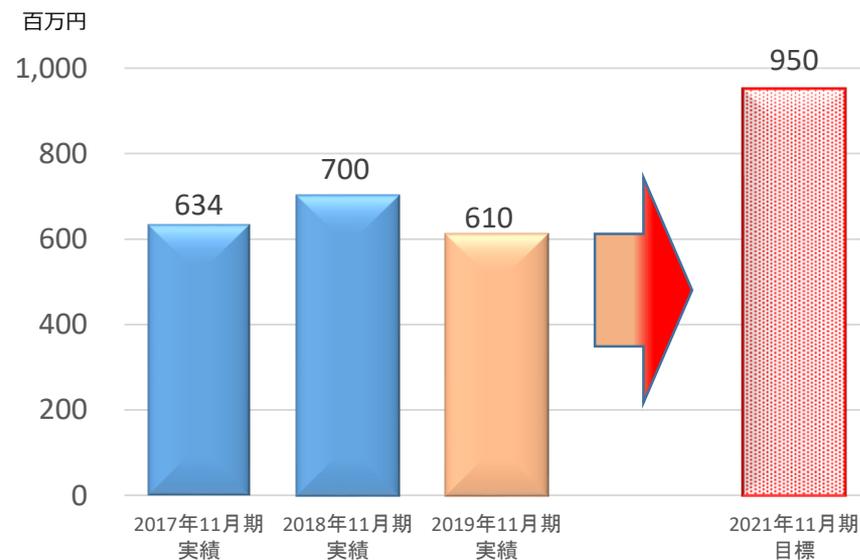
(単位：百万円)

	2017年11月期 実績 中計（初年度）	2018年11月期 実績 中計（2年目）	2019年11月期 実績 中計（3年目）	2021年11月期 目標 中計（最終年度）
売上高	15,173	16,200	14,562	19,000
営業利益	634	700	610	950

売上高



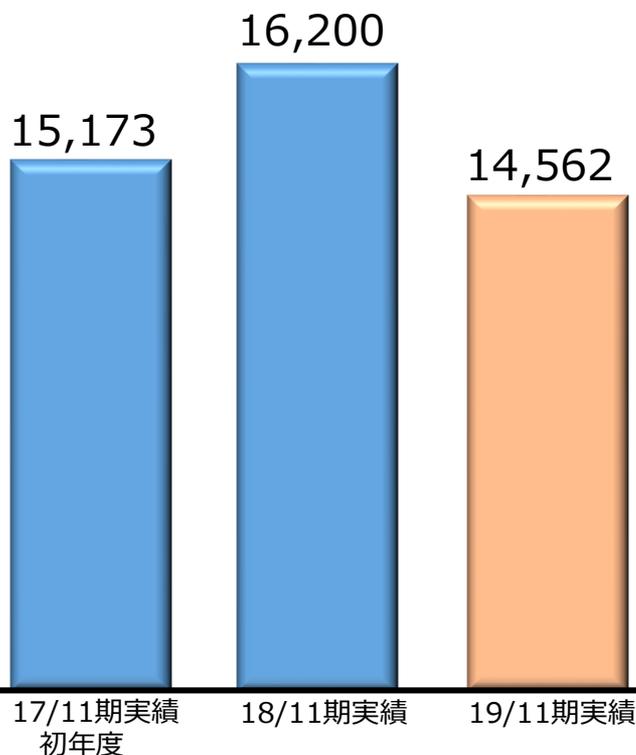
営業利益



## 目標達成に向けた営業戦略

### 売上高の目標達成に向けた戦略

- 機械販売のMachinery Importer から  
ソリューション提供のInnovation Integrator への進化



### 目指すべきビジネスモデル

革新的なものづくり等に挑戦する組織に対して、国内にはない世界最先端の技術を高い専門性を有するプロフェッショナル人材のソリューション提案によって提供する

営業 × 技術 × マーケティング

技術と連携した周辺・関連商材のセット提案

技術サービス（ソフト対応・保守）強化

マーケティングと連携した既存注力商権拡販

有望市場調査および商圏獲得、新規開拓

既存商権の売上に応じた進退

20/11期戦略

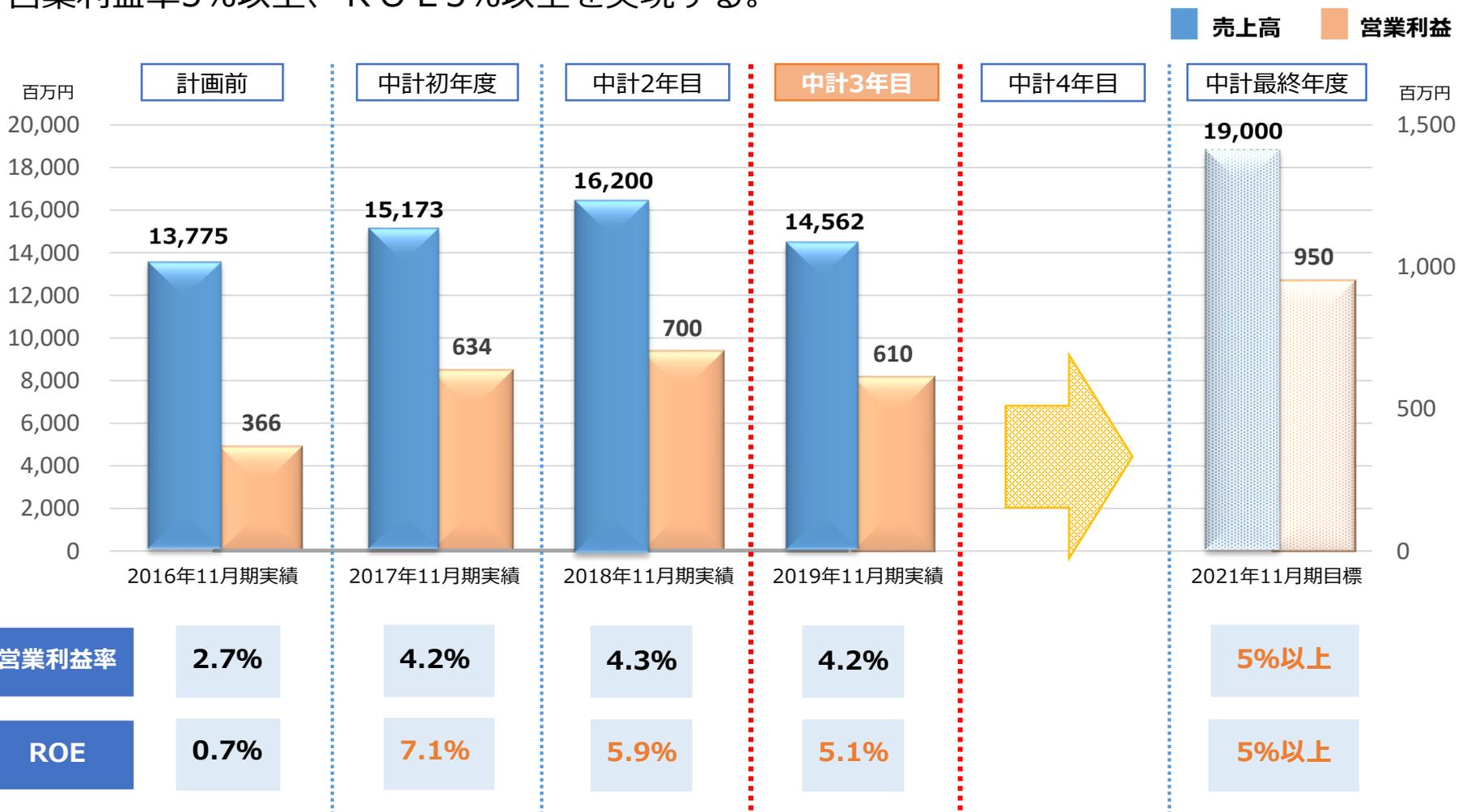
(単位：百万円)  
19,000

21/11期目標  
最終年度

## 経営数値目標

### 経営数値目標

営業利益率5%以上、ROE 5%以上を実現する。



# SDGsへの取り組み

「持続可能な開発目標（SDGs）」は、2030年に向けて世界的な優先課題および世界のあるべき姿をあきらかにしている。当社も多種多様な商品を取り扱う専門商社としてSDGsに代表される社会課題（17の目標）に向き合っており、事業を通じてステークホルダーの期待に応えていくことで、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

## 《持続可能な環境》



“すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する”

### 自動洗浄式ろ過装置



水は生命の源であり、全産業の根幹を支える最も重要な資源です。限りある水資源を大切にし、効率の良い「ろ過」によって省エネルギーと環境負荷低減を両立させます。

— 世界最先端のろ過技術で、良質で安全な水を提供する —

を常に考え産業の発展と人々の暮らしに貢献します。



## SDGsへの取り組み

「持続可能な開発目標（SDGs）」は、2030年に向けて世界的な優先課題および世界のあるべき姿をあきらかにしている。当社も多種多様な商品を取り扱う専門商社としてSDGsに代表される社会課題（17の目標）に向き合っており、事業を通じてステークホルダーの期待に応えていくことで、持続可能な社会の実現に貢献します。

### 《持続可能な経済》

9

産業と技術革新の基盤をつくろう



“強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに技術革新の拡大を図る”

#### R F I Dタグ



無人店舗、セルフレジ導入による人件費削減、店舗や倉庫等の効率化を図るため、コンビニエンスストアやアパレル関連に続き、物流現場や倉庫でも多用されてきているRFIDタグ。人手不足、作業効率の改善を必要とする企業に製造機器や検査機を供給することで貢献してまいります。

#### 3 Dプリンタ



試作品や部品等、自分でデザインしたアイテムが、その場で製造可能ということで作業効率が向上し製造時間の短縮にもつながっています。今まで実現できなかった細部の形状も製造可能となり、モノづくり産業の発展に大きく貢献してまいります。

#### 自律走行型搬送ロボット・自動収納庫システム

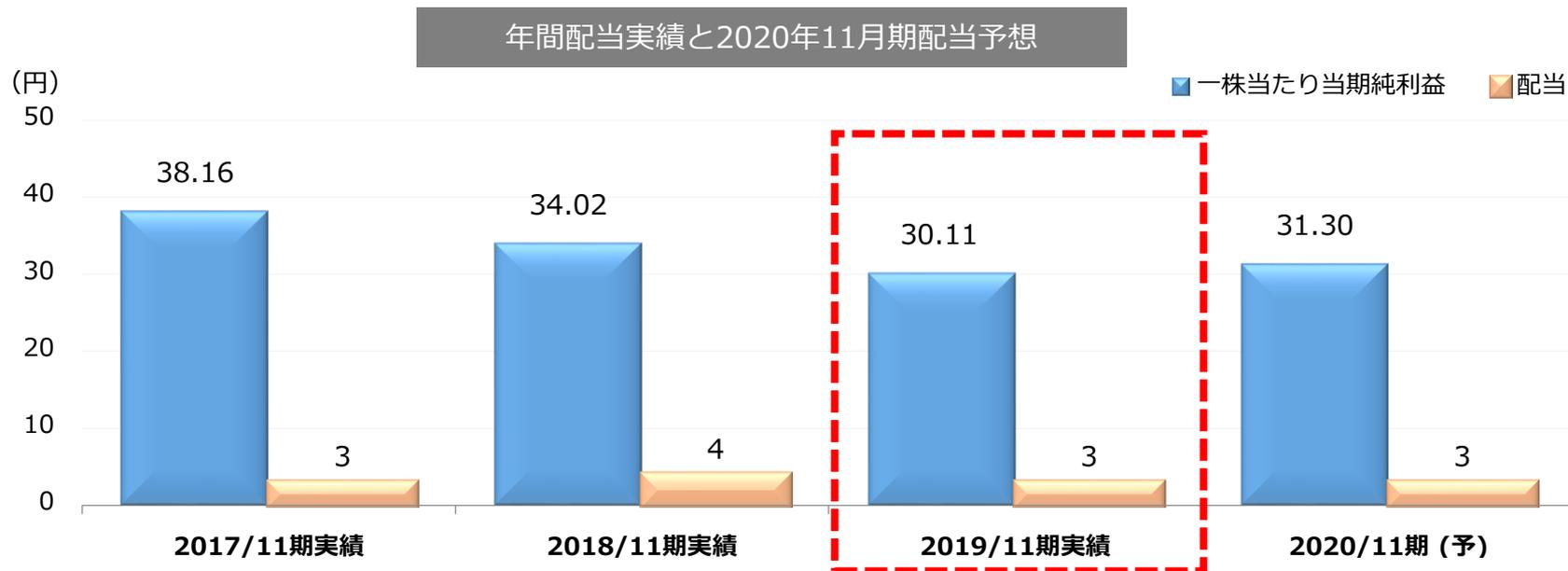


物流・製造現場などでは、少子高齢化による人手不足が深刻な問題となっております。人の代わりに荷物を搬送する自律走行型搬送用ロボットが労働生産性向上に寄与します。

自動収納庫システムは、多くの商品在庫をもつ企業では、商品収納の必須アイテムとなっていくでしょう。商品コードを入力するだけで、商品が自動で取り出し口まで運ばれてくるので、作業者のピッキング効率が向上し、作業者の負担が大幅に軽減されます。

### 株主還元実績

- 配当実績および一株当たり当期純利益の推移。



- 自己株式取得の実績。

#### 自己株式の取得（2019年11月期実績） 上限1億5千万円の自己株式取得を実施

取得期間	1回目 2019/4/1~5/31	2回目 2019/7/1~8/31	3回目 2019/10/7~11/30	3回合計
取得した株式の総数	225,600株	236,600株	210,300株	672,500株
株式の取得価額の総額	49,998,400円	49,992,500円	49,977,100円	149,968,000円

## (将来に関する記述等についてのご注意)

- 本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づき、当社が判断した内容であり、潜在的风险および不確実性が含まれております。これらの目標や予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。
- これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。
- 本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願いいたします。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。